

【特性と課題】

- 利根川や手賀沼などが本市の骨格的な水とみどりを形成しています。

市内には、利根川・手賀沼といった県内でも有数の河川・水辺があります。これらは、大津川・大堀川・金山落などと共に、本市の水とみどりの骨格となっています。

- まとまりと広がりのある田園や谷津田、昔ながらの集落が残っています。

水辺の周囲には広大な水田が広がり、地形の起伏に合わせて斜面林、谷津田が形成されています。それらを背負うように形成されている丘上の集落と周囲の田園が、良好な田園景観を構成しています。

- 旧道沿いや集落等に、歴史的な景観資源が点在しています。

集落内等には農家住宅・長屋門・屋敷林、寺社・教会、庚申塚、野馬土手など、文化的歴史的景観資源が点在しています。これらは、周囲の緑や水田と共に、柏の原風景として保全していくことが望めます。

- 従来想定されなかった様々な土地利用もみられるようになりました。

田園空間の中に、大規模建築物等の立地や、ゴミの不法投棄、産廃施設、資材置場、墓地、駐車場などの立地も見られます。これらは、より良い景観や生活環境を守る観点からも課題となっています。



曙橋から見た手賀沼

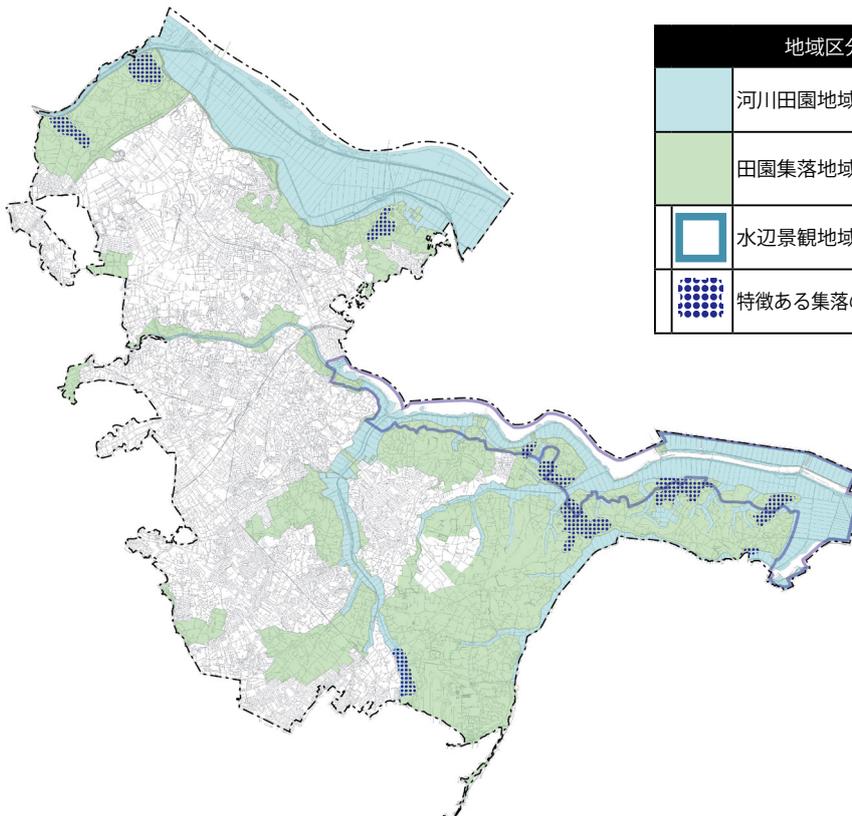


藤ヶ谷地区の谷津田と斜面林



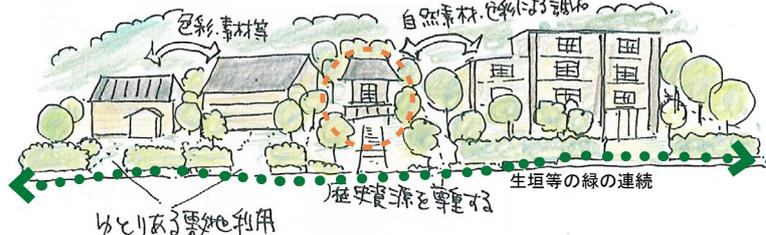
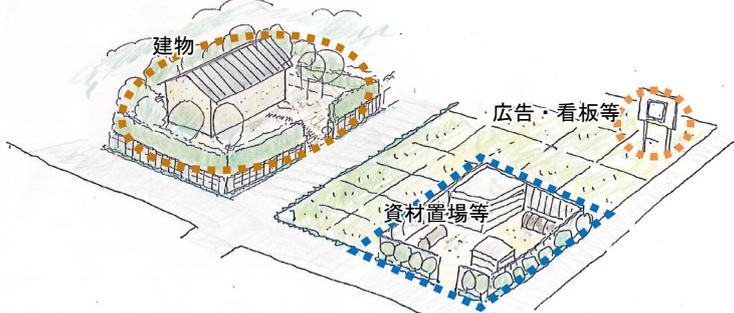
布施弁天

【該当する地域】



地域区分		対応する用途地域
	河川田園地域	市街化調整区域かつ農振農用地
	田園集落地域	市街化調整区域（農振農用地除く）
	水辺景観地域	—
	特徴ある集落のまとまり	—

【ガイドラインの内容】

<p>自然・田園系景観づくりの段階</p>	<p>自然・田園系地域の景観づくりに必要な3つのポイント</p>
<p>柏の自然・田園景観の基本として配慮すること</p>	<p>①地形や自然条件により形成された空間の基本構成を大切にする</p> <p>都市空間の至近にありながら、一定の秩序を持った優良な自然・田園景観は柏の魅力を象徴する景観です。水辺・周囲・奥まった谷津や斜面林の連なり、丘上の集落などの自然・田園地域ならではの風景は、地形や自然条件等に根ざして形成されたもので、可能な限り保全し後世に残していく事が大切です。新たな開発や建物の立地などに際しては、斜面緑地の緑のまともを残すなど、この基本構成を損なわないようにすることが大切です。</p> 
<p>集落景観、敷地利用、まち並み等に配慮する内容</p>	<p>②美しい集落景観の維持と歴史的資源を活かした景観づくり</p> <p>集落では、建物と生垣、農地、屋敷林などが一体となった昔ながらの敷地利用を基本とし、それらが連続して美しい景観が醸成されています。敷地の利用方法の維持、生垣や昔ながらの素材や意匠を積極的に用いるなど、受け継がれてきたまち並みの作法を継承していくことが大切です。また、長屋門や蔵、数多く点在する寺社地やその境内の樹木などを、地区の歴史を物語る貴重な財産として保存活用を図るとともに、地区の歴史資源を尊重した景観づくりが大切です。</p> 
<p>個人住宅等の新築・建て替えの際に配慮すること</p> <p>広告看板の設置、農地の利用転換の際に配慮すること</p> <p>日常的に配慮すること (景観を美しく保つマナーとして)</p>	<p>③個から始める景観づくり</p> <p>建築物を建てる際や、広告看板、資材置場の設置の際には周囲になじんだものとするなど、個々の敷地や建物から景観を意識することが大切です。また、建物や農地の適切な管理はもとより、生垣、敷地際の手入れや掃除など日常からの維持管理が景観の魅力を高めていることを意識し、皆で支え合い、取り組みを拡げていくことが大切です。</p> 

行為の基準

枠部分のガイドラインは、景観法第16条第1項に定める行為の届出及び柏市景観まちづくり条例第7条に定める事前協議の際の基準となります。

自然・田園系地域の景観まちづくりガイドライン	計画・設計要素等	頁
自然・田園空間の基本的な構成を尊重し、協調する	土地利用・造成・敷地利用	50
斜面緑地等、地域の緑の連なりを構成している緑地や樹木の保全に努める	斜面緑地・造成	50
周囲の自然環境になじむデザインや色彩により、良好な空間を創り出す	周辺環境への配慮	51
昔ながらの敷地利用を大切にする	敷地利用	52
集落のまち並み（特に敷き際や、建物の素材、色彩など）の連続感を維持する	隣地との関係	53
周辺の歴史資源を尊重し、建築物の配置や形態を工夫する	建物の配置・形態	53
歴史的資源を地域の記憶として継承する	記憶の継承	53
昔ながらの素材を積極的に活用し、周辺との連続性に配慮する	建物細部のデザイン	54
周辺と調和した落ち着いた色彩とする		55
資材置場等は自然・田園景観になじむようにしつらえを工夫する	資材置場・墓地等の修景計画	56
店舗や、夜間照明、サイン・オブジェ等の要素は、自然・田園景観を損ねない落ち着いたデザインとする	店舗の建物デザイン・夜間照明・広告看板類等	56
建物やその周辺を美しく保つ	日常から始める景観づくり	57
良好な維持管理を持続するための仕組みづくりを行う		57

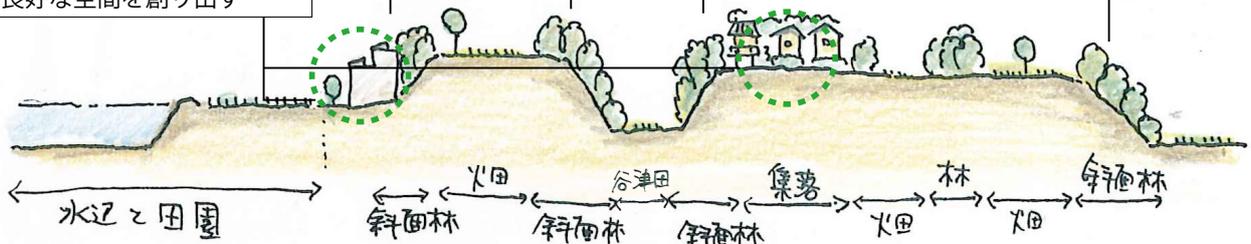
01

地形や自然条件により形成された空間の基本構成を大切にする

1：自然・田園空間の基本的な構成を尊重し、協調する

3：周囲の自然環境になじむデザインや色彩により、良好な空間を創り出す

2：斜面緑地等、地域の緑の連なりを構成している緑地や樹木の保全に努める



大小の水辺、斜面林、農地、谷津田、集落が連続しているのが相の特徴

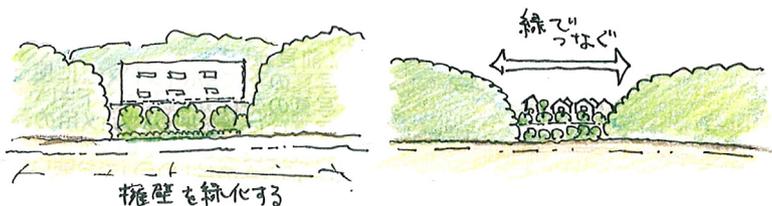
ガイドライン1：自然・田園空間の基本的な構成を尊重し、協調する

自然・田園風景は、水辺とその周囲の水田、地形の起伏により形成される丘と谷津と斜面林、丘上の集落内の畑と農家住宅と背後の屋敷林など、地形や自然条件等に根ざして景観が形成されています。水辺周辺の広がりのある眺望、貴重な緑のまとまりである斜面緑地の連続性、集落内の敷地利用など、基本的な空間の構成を尊重することが大切です。



ガイドライン2：斜面緑地等、地域の緑の連なりを構成している緑地や樹木の保全に努める

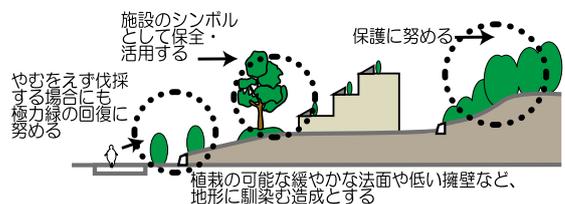
新たに開発や土地利用を行う場合は、斜面緑地等を避けることが基本となりますが、避けられない場合には、スカイラインを樹木より低くしたり、調和する色彩を用いたり、前面に植栽を配するなど、建築物等が緑の連なりを分断しないようにしましょう。



● 斜面林も切らないよう高さも合わせる。
● 色も合わせる

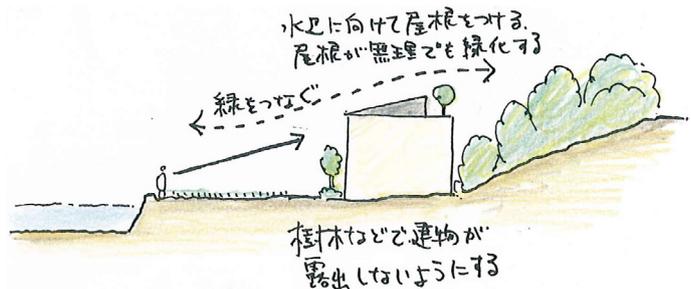


地形を活かした建物配置とするとともに敷地内の緑化に努める



ガイドライン3：周囲の自然環境になじむデザインや色彩により、良好な空間を創り出す

自然・田園系地域での建築行為は、景観にとって大きな影響を与えます。建築物等が周辺の植生や集落地景観となじむようにすると共に、特に大規模な行為の際は構造物が露出して広がりのある眺望や緑のつながりを阻害しないように配慮する必要があります。



建物を建てる場合は、周囲にあわせた形態や意匠、色彩などを用いるとともに、効果的な植栽の配置などにより自然・田園景観になじむよう配慮しましょう。



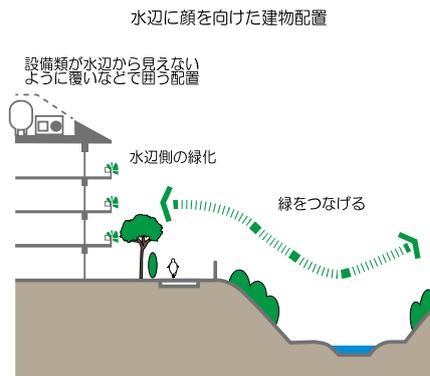
田園集落地域
建物高さを低く抑え、外壁にもアースカラーを用い周囲に配慮しています。(道の駅しょうなん)



田園集落地域
高木が建物のまわりに配され、スカイラインを創り出しています。(大青田)

水辺周辺では、橋や道路などからの眺めに配慮し、親しみやすく潤いのある落ち着いたたたずまいを大切にしましょう。

水辺の護岸なども、自然素材を使用する、緑化に配慮するなどの工夫をしましょう。



河川田園地域
川沿いの緑豊かな住宅地(所沢市)



河川田園地域
手賀沼沿いの遊歩道に面した住宅地(我孫子市)



河川田園地域
川沿いに豊かな緑を設けています。(船戸山高野)

美しい集落景観の維持と歴史的資源を活かした景観づくり

2：集落のまち並み（特に敷き際や、建物の素材、色彩など）の連続感を維持する

3：周辺の歴史資源を尊重し、建築物の配置や形態を工夫する

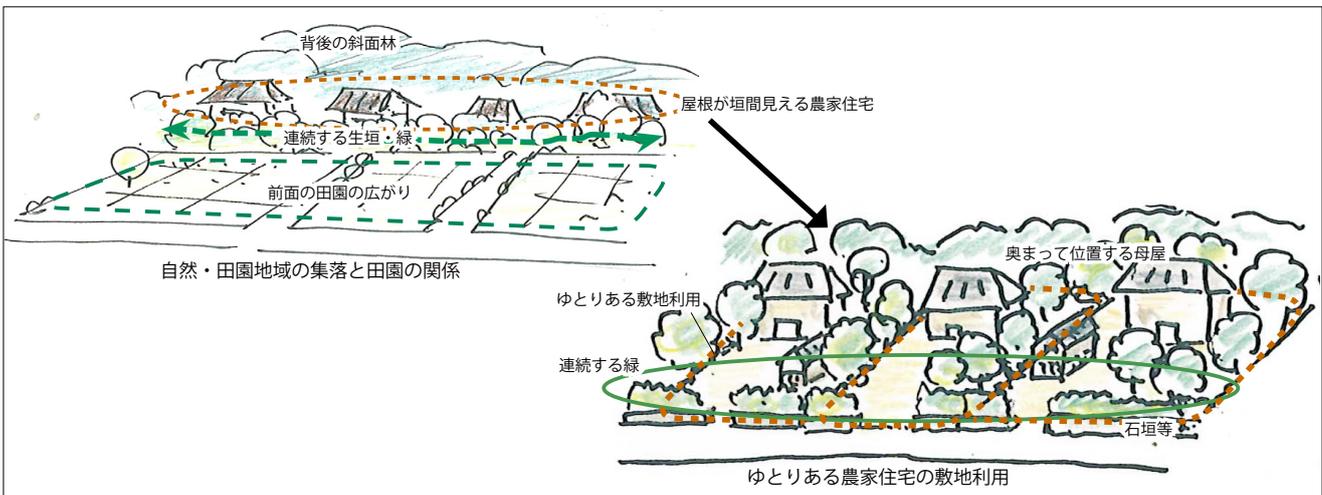


1：昔ながらの敷地利用を大切にする

4：歴史的資源を地域の記憶として継承する

ガイドライン1：昔ながらの敷地利用を大切にする

集落では、自然条件や生活文化に由来して、樹林地、農地、建物の配置などに一定の形態があります。旧来の農家住宅ではゆとりのある敷地利用がなされており、これが連続することで落ち着いたある集落景観となっています。新しく建築物等を建てる際、昔ながらの敷地の使い方を意識し、大切にすることで、美しい集落景観を継承することが出来ます。



敷地の奥に母屋が配置され、豊かな緑が配されたゆとりある敷地利用をした農家住宅が連続することで、落ち着いたたたずまいのある集落景観が形成されています。



田園集落地域

農地の奥側には、生垣と住宅があり、その後ろに樹林地が控えています。(梁井入新田先)



田園集落地域

畑から宅地の庭木、背後の緑とが一体となった昔ながらの景観です。(戸張)



田園集落地域

前面に畑があり、背後に斜面林を背負った農家住宅(下手賀沼周辺)

ガイドライン2：集落のまち並み（特に敷き際や、建物の素材、色彩など）の連続感を維持する

生垣が連続しているなど集落ならではの景観づくりの作法を継承して、周辺のまち並みとの調和を図りましょう。



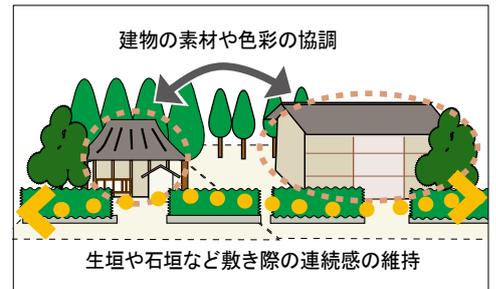
田園集落地域

生垣や敷地内から見える緑が連続する集落内の景観（鶯野谷）



田園集落地域

落ち着いた建物の色彩と生垣や庭木により地域になじむデザインとなっています。（布施）



建物の素材や色彩の協調

生垣や石垣など敷き際の連続感の維持

ガイドライン3：周辺の歴史資源を尊重し、建築物の配置や形態を工夫する

地域の歴史を物語り、地域に親しまれてきた寺社地などの歴史資源を大切に扱い、周辺の建物の配置やデザインの工夫をしましょう。



素材の使い方や緑の配置を、周辺の歴史的意匠と調和させましょう。



寺社の参道に面する部分を緑化して、参道を演出しましょう。



田園集落地域

寺まで生垣の連なりが続きます。（泉）

ガイドライン4：歴史的資源を地域の記憶として継承する

集落の文化に基づいた長屋門や蔵などの建物、数多く点在する寺社地や祠、シンボルとなる境内の樹木、野馬土手などを、地域に親しまれてきた貴重な財産として積極的に保全、活用しましょう。

保全が困難な場合でも、部分的に残す、素材を再利用する、同様の意匠や素材とするなど、地域の記憶を継承する工夫をしましょう。



点在している長屋門（下手賀沼周辺）

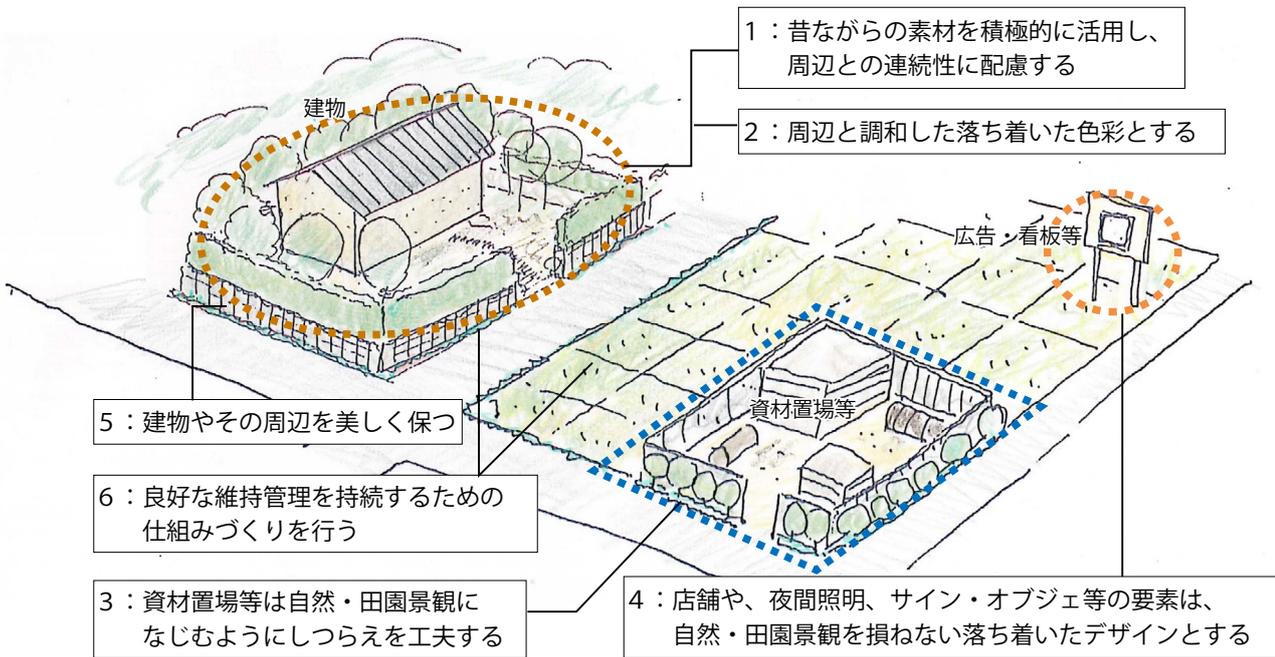


がっしりとした造りの蔵（布施）



地域のシンボルとなっている神社の巨木（弘誓院）

個から始める景観づくり



ガイドライン1：昔ながらの素材を積極的に活用し、周辺との連続性に配慮する

塀や生垣、門、庭、外壁、瓦などに用いられている昔ながらの素材を積極的に活用することで、周囲になじんだ家並みを保全しましょう。



田園集落地域

生垣の造りや屋根の素材が周囲に合わせられているため、家並みに連続性があります。(高柳橋周辺)



田園集落地域

高い生垣を刈り込んで門を演出しています。(布施)



田園集落地域

同じ素材の屋根や壁が連続し、整った景観となっています。(布施)



田園集落地域

地域でよく使われる瓦や意匠を用いた農家住宅(岩井)



田園集落地域

風格を感じさせる屋根付きの門(布施)



市内でも珍しくなった茅葺屋根の農家住宅(鷺野谷)

ガイドライン2：周辺と調和した落ち着いた色彩とする

屋根や壁面等、周辺から突出するような華やかな色彩を避け、無彩色や低彩度とすることで、周辺の景観との調和を図りましょう。

※色彩については、(3)共通ガイドライン4もご覧下さい。

● 現況の色彩景観

周囲の自然と融和する風格のある建物
古くからの田園風景が今も継承されている市街地周縁部の建物は、日本の伝統的な建築工法によって建てられた民家が多く、落ち着いた中にも明暗の対比がはっきりとした凛とした表情の建物が多くみられます。これらの住宅では、漆喰の白、経年変化によって風格を増した木材のこげ茶、いぶし瓦の灰色が配色の典型となっており、背景に展開する斜面林や屋敷林と融和した穏やかな外観が形成されています。

一部にみられる派手な色彩

一方、これらの地域には、伝統的な様式を踏襲しながらも屋根材に派手な青や緑の瓦を用いた建物や、外装の損傷をカラータタンなどで補修した建物も一部にみられ、郷愁を感じさせる景観の中で対比的な色彩要素となっています。

● 目指したい色彩景観イメージ



木材などの自然素材が周囲のみどりと調和した民家（布施）



周囲の樹林や畑土など自然の色彩が映えるいぶし瓦の民家（酒井根）

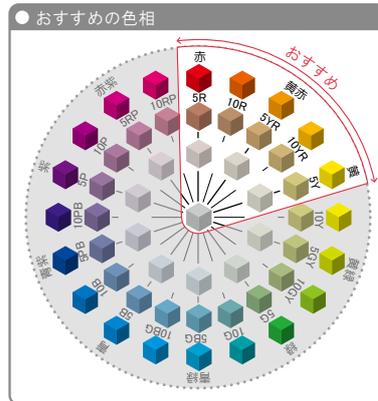
● 色彩景観づくりの方向性

昔ながらの素材色を尊重して
歴史的な雰囲気や継承していくため、色彩だけでなく素材の統一性を大切に漆喰や木材、和瓦など伝統的な建材を積極的に用いて、年月とともに風格を増す景観を継承していくことが大切です。

継承されてきた身近な自然を大切に
水辺や斜面緑地などに隣接する建物は、これまで大切に継承されてきた自然の色彩を尊重し、自然の緑よりも穏やかな低彩度のトーンを基本に、その材質感やつやなどにも配慮して色彩を選択することが重要です。

● おすすめの色彩

伝統的な民家などに用いられ、周囲を取り囲む自然景観に融和する低彩度のトーンをおすすめします。色相は、木材や漆喰などの伝統的な建材を尊重し、YR（黄赤）やY（黄）などの暖色系や無彩色をおすすめします。



● おすすめの色彩例 記号はマンセル値、[] は日本塗料工業会標準色見本帳番号を表しています

● 高彩度・低彩度色

5.0YR8.5/1.0 [15-85B]	10YR9.0/1.5 [19-90C]	10YR8.0/1.0 [19-80B]	2.5Y8.5/1.0 [22-85B]	2.5Y8.0/1.5 [22-80C]	5.0Y8.0/1.0 [25-80B]
10YR9.0/0.5 [19-90A]	10YR8.5/1.0 [19-85B]	10YR8.0/1.5 [19-80C]	2.5Y8.5/1.5 [22-85C]	5.0Y9.0/0.5 [25-95A]	N9.0 [N-90]
10YR9.0/1.0 [19-90B]	10YR8.5/1.5 [19-85C]	2.5Y9.0/1.0 [22-90B]	2.5Y8.0/1.0 [22-80B]	5.0Y8.5/1.0 [25-85B]	N8.5 [N-85]

● 中彩度・低彩度色

5.0YR7.0/1.0 [15-70B]	7.5YR7.0/2.0 [17-70D]	10YR7.5/2.0 [19-75D]	10YR6.0/3.0 [19-60F]	2.5Y6.0/1.5 [22-60C]	5.0Y7.0/1.5 [22-70C]
5.0YR7.0/2.0 [15-70D]	7.5YR6.0/2.0 [17-60D]	10YR7.0/2.0 [19-70D]	2.5Y6.0/2.0 [22-75D]	2.5Y6.0/2.0 [22-60D]	N7.5 [N-75]
5.0YR6.0/2.0 [15-60D]	10YR7.5/1.0 [19-75B]	10YR7.0/3.0 [19-70F]	2.5Y7.5/2.0 [22-70D]	5.0Y7.5/1.5 [22-75C]	N7.0 [N-70]

※色見本は、印刷による色再現のため、実際のマンセル値とは若干異なります。

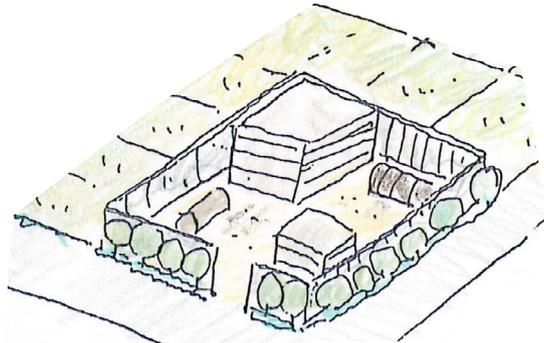
個から始める景観づくり

ガイドライン3：資材置場等は自然・田園景観になじむようにしつらえを工夫する

資材置場、産廃施設、墓地などは自然・田園景観の中でも特に目立ちやすいものです。広がりのある眺めを守るために周囲を緑化してなじませたり、通りからの眺めに配慮して、資材の積み方を工夫するなど、できるだけ目立たずきれいに見えるような工夫をしましょう。



資材置き場の前面を緑化しています。(横浜市)

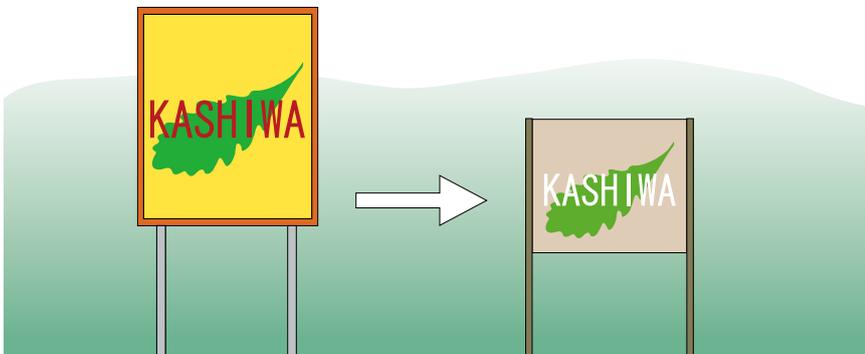


きれいに見えるような資材の積み方の工夫や、周囲を緑化するなど自然・田園景観になじむようにしましょう

ガイドライン4：店舗や、夜間照明、サイン・オブジェ等の要素は、自然・田園景観を損ねない落ち着いたデザインとする

自然・田園景観の中では、店舗のデザインや、サイン・オブジェなどを誘目性の高い意匠とした場合、市街地以上に目立ちやすく、景観を損ねる要因となりかねないことに留意しましょう。

広告・看板類を設置する際には、緑や水辺を隠さない必要最小限の数量・大きさとし、景観になじみやすい自然系の素材、ごく低彩度の色彩を基調としましょう。



看板はできるだけ小さくして、緑や水辺を隠さないようにするとともに、景観になじむ色彩やデザインとしましょう。



自然になじむ木製のサイン、文字やデザインも自然景観に調和しています。(酒井根六丁目)

ガイドライン5：建物やその周辺を美しく保つ

個々の建物と自然・田園が一体となった良好な田園集落地域の景観を維持するためには、建物の外観や庭木、生垣、敷地際などをきれいに美しく保つことが大切です。



田園集落地域

よく手入れされた生垣の外側に花を植えています。(布施)



田園集落地域

敷地境界部に花を植え、絵になる景観を創り出しています。(布施)



田園集落地域

屋敷の周辺や田んぼに下がる斜面に木を植えられています。(藤ヶ谷)

ガイドライン6：良好な維持管理を持続するための仕組みづくりを行う

集落では、高齢化等の諸事情により、屋敷や農地の周辺の維持管理が難しくなっていたり、不法投棄やゴミのポイ捨て等の心無い行為により、荒れた地域となってしまうこともあります。これらは個人個人のマナーの問題ではありますが、地域で取組む課題と捉え、必要に応じて地域以外の人々とも協力して解決する仕組みをつくるのが大切です。



地域の方々が参加して、清掃活動を行っています。(小山市)



地域で公園の維持管理を行っています。(板橋区)

